

## 気候変動に関するグローバルキャンペーン「Generation Hope 2026」

### マダガスカル×日本 交流授業 参加校募集のお知らせ



2025年の交流授業の様子

#### Generation Hope2026 とは・・・

近年、気候変動の影響により、熱波や大雨による洪水・土砂災害、山火事など自然災害の被害は増え、気候変動と災害リスクは私たちにとってさらに身近なものになっています。

「夏が暑すぎて、外で遊べない。学校の行事や授業も中止になったことがある。」

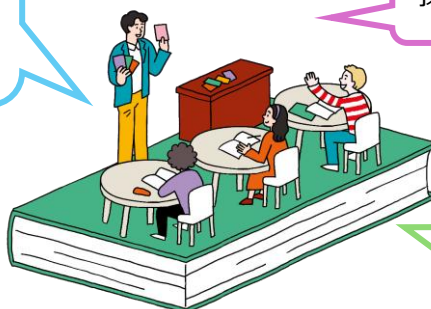
「毎年どこかの地域で、大雨になる。私の学校も台風のとて避難所になった。」

また、国によっては干ばつによる食料危機の深刻化や、水害による感染症の流行なども生じています。

健やかに成長する、学ぶ、遊ぶなど子どもの権利の実現がさらに難しくなっているなか、気候変動による災害にどのように備えることができるでしょうか。

「Generation Hope（ジェネレーション・ホープ）」キャンペーンは、気候変動と不平等を終わらせるために、子ども・ユースの皆さんと共にアクションを起こすセーブ・ザ・チルドレンの世界的な取り組みです。昨年に引き続き、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、日本とマダガスカルの中高校生が交流しながら、互いの国の気候変動による災害の影響を学び、自分たちにできることや、町・国に求めたい防災について考える「交流授業」企画を実施します。

国際交流や環境保護・防災などの活動を行う部活動・課外活動として応募しよう



探求の授業で、選択コースの1つにしよう

SDGsについて学ぶ授業に取り入れよう

⇒さまざまななかたちでキャンペーンに参加できます。交流授業の詳細・募集要項は裏面をご覧ください。

**【交流授業の概要・流れ】**

開催時期：2026年7月～11月

1回目（2コマ） ※連続2コマ授業でも、2日で1コマずつに分けての実施でも良い セーブ・ザ・チルドレンによる授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● オリエンテーション・講義「気候変動と防災について」</li> <li>● 身近な気候変動による災害や、町の防災について知る・グループワークなど マダガスカルに送る、自己紹介動画/制作物①Through Our Eyes、②私の声（※p3にイメージあり）の作成準備</li> </ul>
自習① 原則 参加校のみで実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自己紹介動画（5分）の作成</li> <li>★ マダガスカルと自己紹介動画を交換</li> </ul>
夏休み	生徒にて制作物の作成に取り組む
2回目（2コマ） セーブ・ザ・チルドレンによる授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 夏休み後、マダガスカルと制作物①Through Our Eyes、②私の声）を交換</li> <li>● 夏休みの制作物について共有、マダガスカルから届いた自己紹介動画、制作物を見て両国の気候変動と防災の共通点や違いを知る。まち・国に求めたい防災対策や、日本が防災で貢献できることを考える</li> <li>● セーブ・ザ・チルドレンの海外事業担当によるミニ講義</li> </ul>
自習② 参加校による実施、またはセーブ・ザ・チルドレンによる授業（応相談）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本からの動画/制作物を見たマダガスカル参加者からの感想を共有</li> <li>● 3回目の授業に向けた準備</li> </ul>
3回目（1コマ） セーブ・ザ・チルドレンによる授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● まち・国に求めたい気候変動・防災対策について、政策決定者や専門家と意見交換を行う（生徒から学びの内容について発表）</li> </ul>

※スケジュールや授業時間数は参加校の授業・課外活動のご都合や、学習の進捗などをふまえ、先生とのご相談の上変更・調整します。マダガスカルとの制作物の交換はセーブ・ザ・チルドレンが行います。

※マダガスカルの情勢や、電気・ネット環境などの状況が許せば、ご希望に応じて、自己紹介動画の交換ではなくオンラインで交流を行う可能性がございます。

※最後の授業では、政策決定者や専門家を招いて意見交換、また生徒から学びの内容について発表いただく構成を想定しています。実施詳細・形式などについて、打ち合わせの中で学校・先生のご意向を確認させていただきます。

**【募集要項】**

◆ 応募できる学校について：募集学校数 1～2校

① 約5年以内に気候変動による災害の影響を身近に感じたことのある地域の中学校・高校

例：大雨による洪水・土砂災害、雪害、山火事、虫の大量発生による農作物への多大な影響のあった地域、酷暑や大雨により行事の中止や休校措置を実施したことがある学校など

② 約5人～40人の生徒が交流授業に参加できる

③ 写真・動画撮影やオンライン授業を行うための機材を準備できる（写真・動画撮影はスマホで可）

④ 2026年7月～11月の間に、上記の活動に取り組むことができる

授業3～5コマ分と制作物を準備するための自習時間の確保をお願いいたします。

また、学校ではなく中高生が所属し、大人のコーチがいるユースチームなども参加可能です。ユースチームでの参加をご検討の場合は、ご相談ください

◆ 使用言語：日本語（連携国はフランス語・現地語を使用しますが、セーブ・ザ・チルドレンが翻訳をサポート）

**募集締め切り：2026年5月25日（月）** 参加校の選考結果は6月上旬頃にご連絡予定です。

さまざまな学校・子どもたちがこの授業に参加できるよう、選考では初参加の学校を優先的に選考する場合がございます。

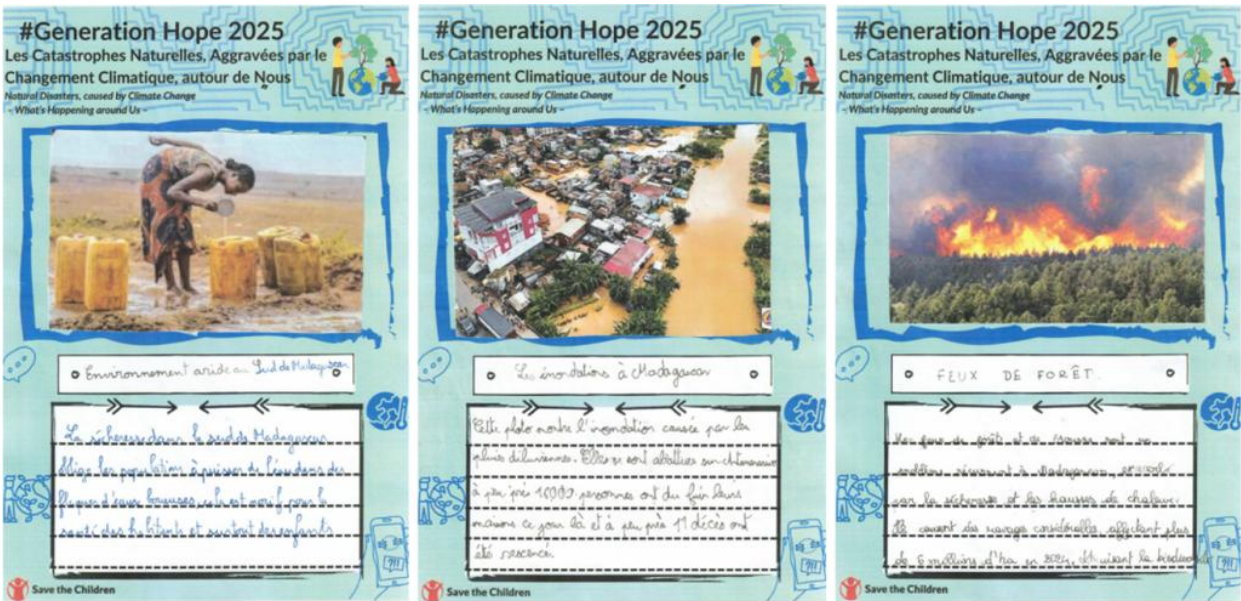
講師への謝礼は不要ですが、学校所在地に応じて講師の交通費の一部負担についてご相談させていただきます。

【制作物について】

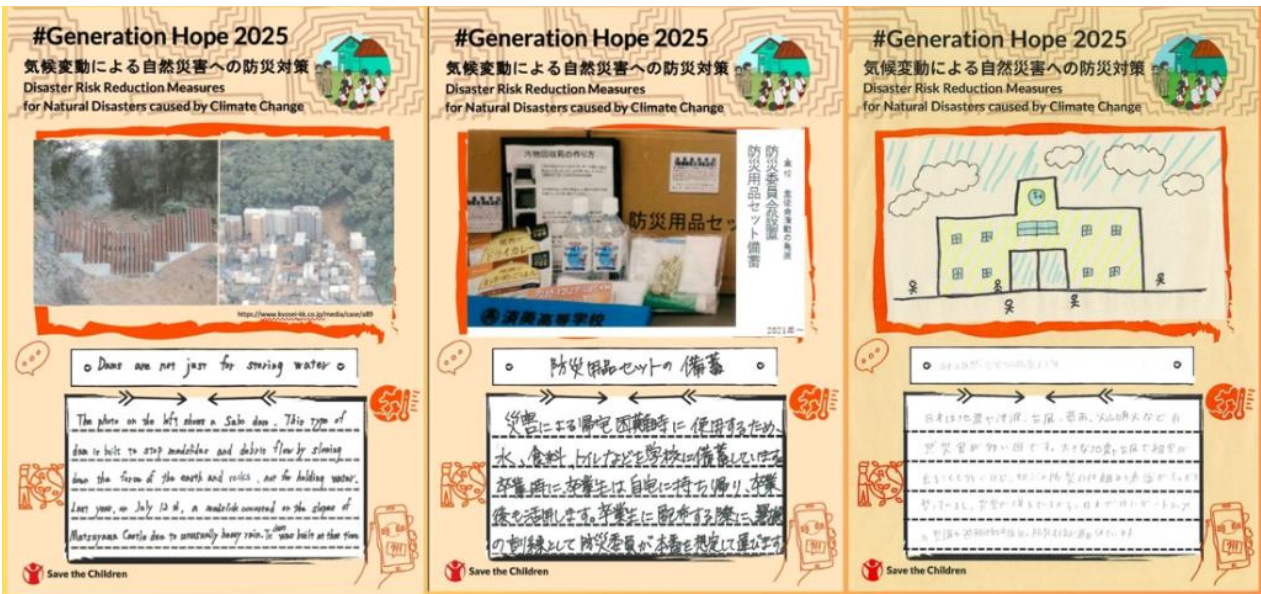
① Through Our Eyes—私たちの目にうつるもの—

今直面している気候変動による災害や防災が、自分たちの目を通してどう見えているかを、写真や絵と説明文で表現します。

<2025年の交流授業でマダガスカルと日本の子ども参加者が制作したもの（一部紹介）>



—マダガスカルの子どもたちによる「マダガスカルで起きている気候変動による自然災害」



—日本の子どもたちによる「身近な防災対策」

2025年交流授業のThrough Our Eyesをもっと見たい方はこちら⇒



② 私の声

気候変動に伴う身近な自然災害と防災対策について学んだうえで、「まち・国に求めたい気候変動・防災対策」を考えて自分の声・意見を文章で表現します。

<2025年の交流授業でマダガスカルと日本の子ども参加者から出た意見（一部紹介）>

「気候変動について、もっと子ども・若者の声を聴く場を作ってほしい」

「気候変動と防災について、国をあげての啓発活動を行ってほしい。具体的には・・・」

【お申込みはこちらから】

<https://forms.gle/8VhXw2whu79DpZB68>

※応募の手続きは、学校やユースチームの先生・コーチなどからさせていただきますよう  
よろしくお願いいたします。



【お問い合わせ】 参加人数や、授業スケジュール、応募資格などご不明な点についてお気軽にお問合せください。

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン アドボカシー部 社会啓発チーム

〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-8-4 山田ビル 4 階 Tel: 03-6859-0015

メール : [japan.advocacy@savethechildren.org](mailto:japan.advocacy@savethechildren.org)

【セーブ・ザ・チルドレンとは】

セーブ・ザ・チルドレンは子ども支援専門の国際 NGO です。

1919 年、イギリス人のエグランタイン・ジェブによって創設され、第一次世界大戦後、敵味方の立場を超えて栄養不良の子どもたちの支援に取り組みました。すべての子どもにとって、生きる・育つ・守られる・参加する権利が実現されている世界を目指し、世界約 100 ヶ国で活動しています。

日本では、1986 年にセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが設立され、海外で緊急・人道支援、保健・栄養、教育などの分野で活動するほか、日本国内で、子どもの貧困問題や防災、災害支援などに取り組んでいます。

【Generation Hope キャンペーンについて】



過去の Generation Hope キャンペーンの様子は、

下の QR コードから詳しくご覧いただけます。

昨年の交流授業については、「これまでの活動」内の

「—2025 年の活動」の記事をご覧ください。

